



成果報告会開催案内

●基礎研究会耐熱強靱チタン研究部会

耐熱強靱チタン研究部会疲労・物性WG成果報告会

チタン材料は、軽量高強度構造材料としてより一層の信頼性を確保していくためには疲労特性の把握、疲労データの整備が不可欠である。また、コスト低減、高性能化においては再結晶、変態、析出などを適切に制御することが重要で、これらの基礎過程はいずれも拡散現象が関与している。

そこで、本部会では、疲労・物性の2ワーキンググループを設け、平成2年より3か年に亘り、前者ではTi-6Al-4V合金の高サイクル疲労に関する共通試験を、後者では、工業的観点から重要となるβ合金中でのβ安定化元素、Alの拡散係数の測定を行った。本報告会では、その成果を報告する。

1. 主催：(株)日本鉄鋼協会
2. 日時：平成6年3月31日(木) 13:00~16:55
3. 場所：東京工業大学 春季講演大会第2会場
4. プログラム
 - 13:00~13:05 部会長挨拶.....岸 輝雄 (東 大)
 - I. 疲労ワーキンググループ成果報告.....座長：大内 千秋 (N K K)
 - 13:05~13:25 疲労共通試験の概要.....萩原 益夫 (金 材 研)
 - 13:25~13:45 高サイクル疲労強度に及ぼす表面粗さ、切欠きの影響.....横幕 俊典 (神 鋼)
 - 13:45~14:05 高サイクル疲労強度に及ぼす応力比、周波数の影響.....堀谷 貴雄 (新 日 鉄)
 - 14:05~14:25 高サイクル疲労強度に及ぼす試験温度・水素の影響.....新家 光雄 (豊橋技科大)
 - 14:25~14:45 高サイクル疲労強度に及ぼすα粒径、α相量の影響.....大矢 耕二 (大 同)
 - 14:45~15:05 討議
 - II. 物性ワーキンググループ成果報告.....座長：西村 孝 (神 鋼)
 - 15:15~15:35 拡散実験の概要.....大山 英人 (神 鋼)
 - 15:35~16:05 β合金中のAlの拡散.....藤井 秀樹 (新 日 鉄)
 - 16:05~16:35 β合金中のβ安定化元素の相互拡散.....前田 尚志 (住 金)
 - 16:35~16:55 討議
5. 参加費：無 料
6. テキスト (報告書)：別売、「鉄と鋼」新刊図書予約案内によりお申し込み下さい。(本号N120に掲載)
7. 問合せ先：(株)日本鉄鋼協会 技術室 上村 一郎, 大島 孝子
〒100 千代田区大手町1-9-4 経団連会館3階 (TEL 03-3279-6021 FAX 03-3245-1355)



シンポジウム開催案内

●共同研究会製鉄部会製鉄技術検討会

魅力ある製鉄技術を求めて

本検討会は、西暦2000年~2010年の製鉄プロセスについて予測されるニーズに基づいて検討し、21世紀の製鉄技術の課題抽出を目的として、①高炉法②高性能高炉③高炉法以外の選択④製鉄法を取り巻く要因の各テーマについて2年間に亘り、調査活動を実施してきた。

- 本報告会では、その成果を報告する。
1. 主催：(株)日本鉄鋼協会
 2. 日時：平成6年4月1日(金) 13:00~16:20
 3. 場所：東京工業大学 春季講演大会第12会場
 4. プログラム
 - 13:00~13:05 委員長挨拶.....徳田 昌則 (東 北 大)
 - I. 製鉄技術の将来展望 (13:05~13:15).....徳田 昌則 (東 北 大)
 - 1. 製鉄技術の位置づけとそれを取り巻く環境 2. 21世紀の製鉄プロセス像とその課題
 - II. 高炉への期待 (13:15~14:45)
 - 13:15~13:45 1. 近未来の高炉操業.....碓井 建夫 (阪 大)
 - 1. 1 コークス比低減策としての微粉炭多量吹き込み 1. 2 コークス-高炉にとって期待されるコークス
 - 13:45~14:05 2. 近未来の高炉設備-パーマメント出鉄口.....川上 正博 (豊 技 大)
 - 14:05~14:25 3. 高性能高炉へのアプローチ-超高圧高炉.....村山 武昭 (九 大)
 - III. 高炉法によらない製鉄法 (14:45~15:30)
 - 14:45~15:00 1. 21世紀の状況設定と高炉によらないプロセス像.....芝池 秀治 (新 日 鐵)
 - 15:00~15:20 2. 石炭有効利用プロセスの検討.....富田 幸雄 (日 新)
 - V. 製鉄を取り巻く要因 (15:30~16:15).....松浦 正博 (N K K)
 - 15:30~15:45 1. 廃棄物処理と製鉄技術
 - 1. 1 廃棄物処理の現状と問題点 1. 2 廃棄物処理問題解決への提言
 - 15:45~16:05 2. スクラップと製鉄技術
 - 1. 1 スクラップの現状と問題点 1. 2 スクラップ問題解決に向けての提言
 - VI. まとめ (16:15~16:20).....徳田 昌則 (東 北 大)
 5. テキスト (報告書)：別売、「鉄と鋼」新刊図書案内によりお申し込み下さい。Vol.79 No.10 (平成5年10月号) N749をご参照下さい。
 6. 問合せ先：(株)日本鉄鋼協会 技術室 磯部 光利, 林 万紀子
〒100 東京都千代田区大手町1-9-4 経団連会館3階 (TEL 03-3279-6021 FAX 03-3245-1355)